日露戦争までの約三十年間、横須賀造船所はまさに
日露戦争を勝利に導く陰の立て役者でした。

日本海海戦：1905

日露戦争：1904

横須賀海軍工廠：1903

日英同盟：1902

三国干渉：1895

日清戦争：1894

1884：清仏戦争

横須賀造船所：1871

臥薪嘗胆期

日本近代化揺籃期

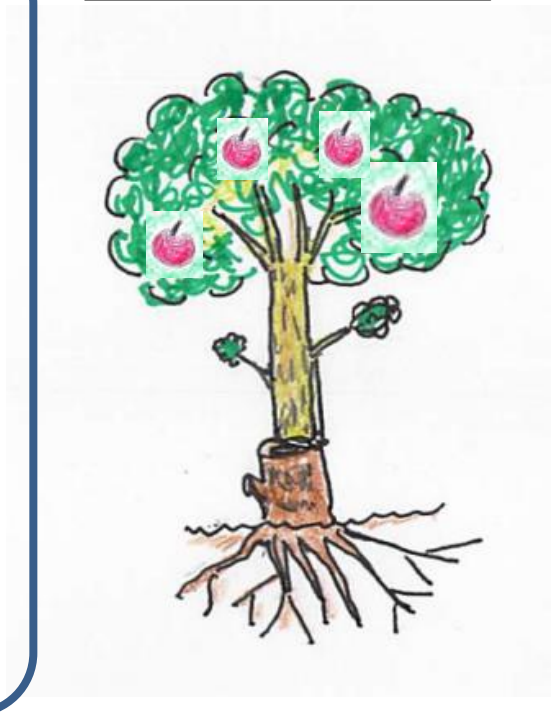
展示内容

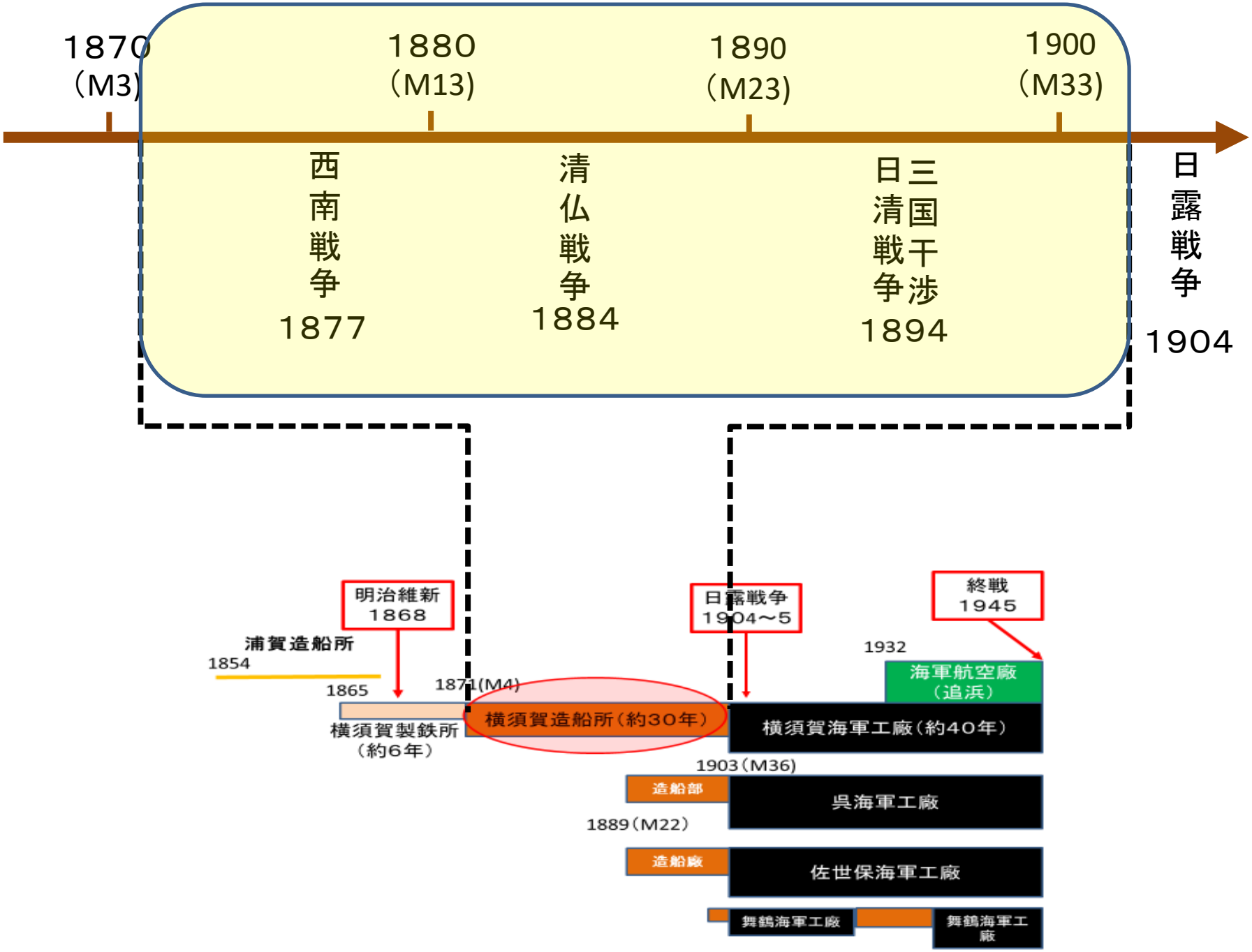
日露戦争を支えた横須賀造船所の技術

東京湾の防備
・千代ヶ崎砲台
・海堡

近代化の象徴
横須賀造船所

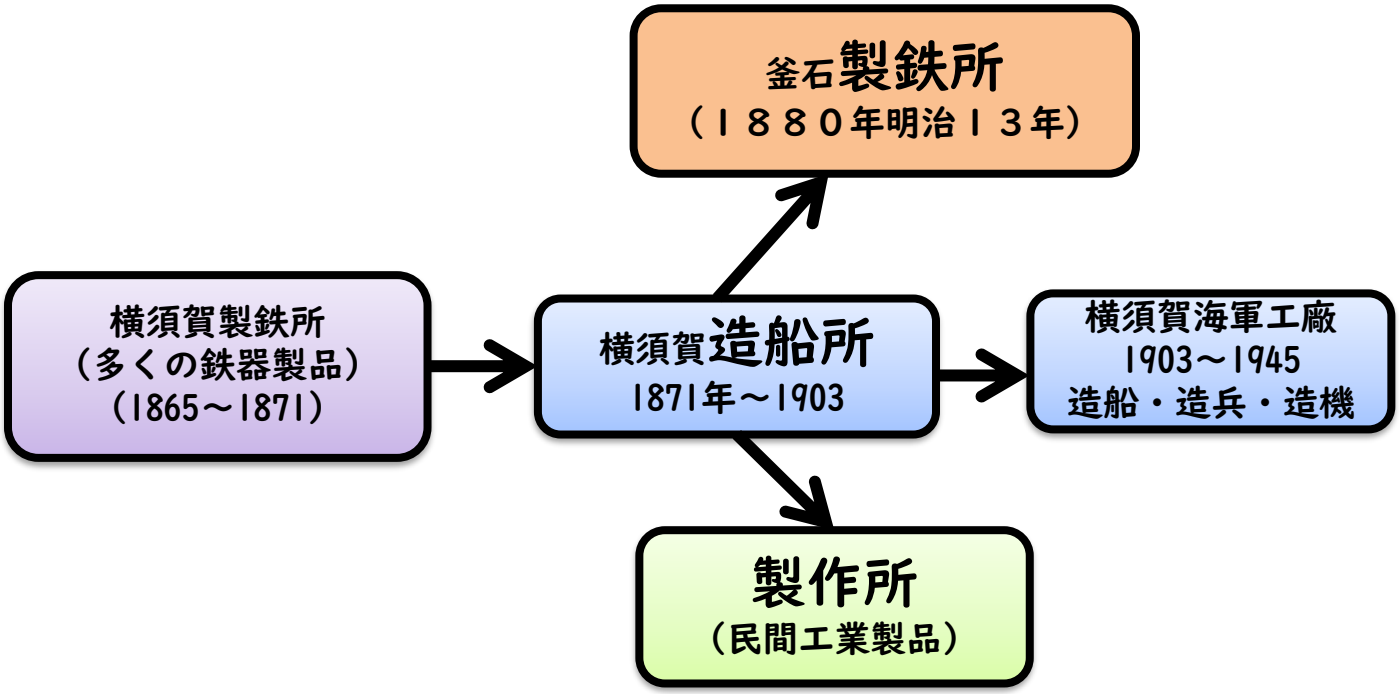
横須賀造船所時代



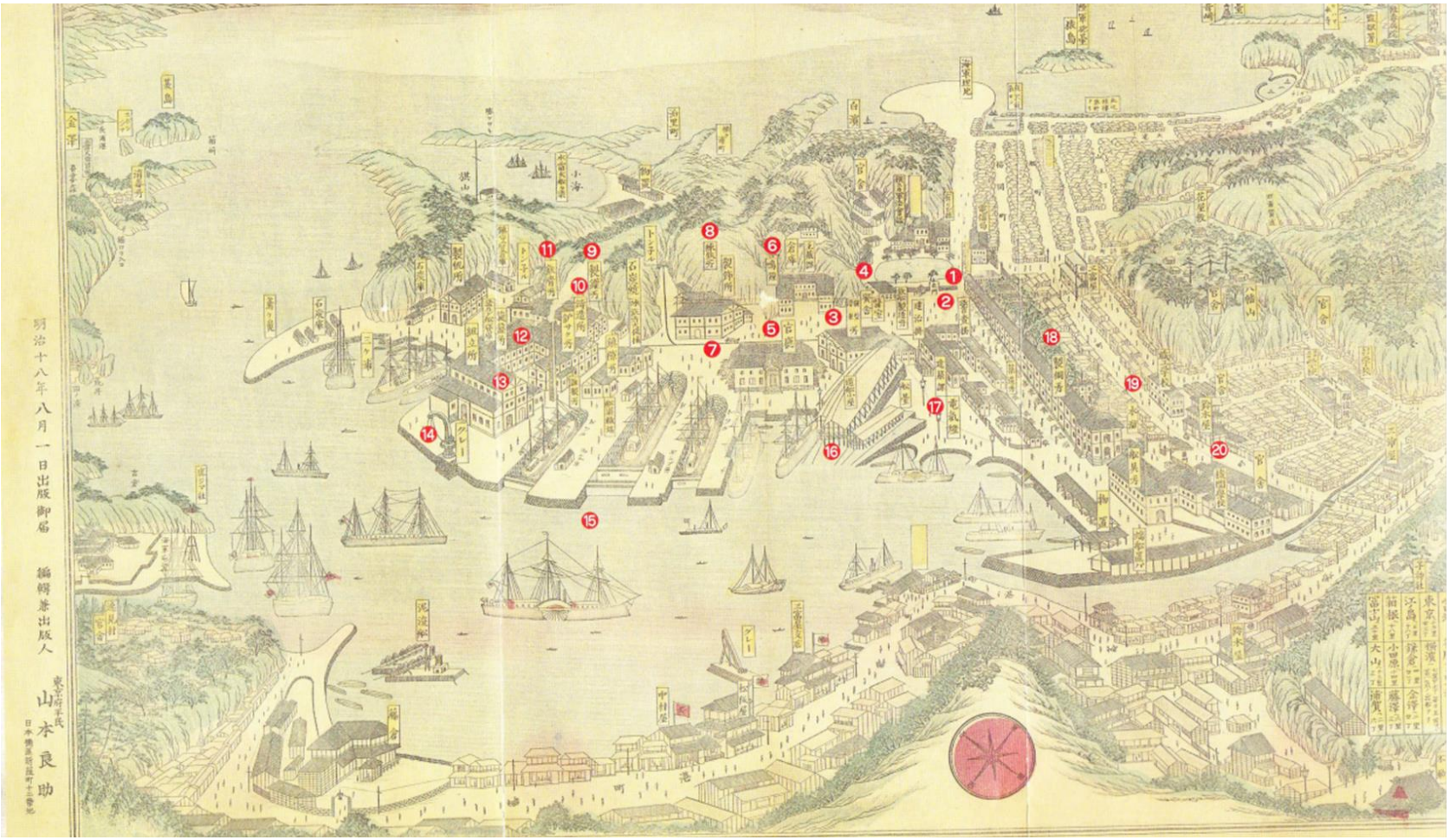

1870
(M3)
1880
(M13)
1890
(M23)
1900
(M33)
西南戦争
1877
清仏戦争
1884
日清戦争
三国干渉
1894
日露戦争
1904
明治維新
1868
日露戦争
1904～5
終戦
1945
浦賀造船所
1854
1865
1871(M4)
1932
海軍航空廠
（追浜）
横須賀製鉄所
（約6年）
横須賀造船所（約30年）
横須賀海軍工廠（約40年）
1903（M36）
造船部
呉海軍工廠
1889（M22）
造船廠
佐世保海軍工廠
舞鶴海軍工廠
舞鶴海軍工廠

製鉄所から造船所へ

横須賀製鉄所は全ての工業製品をつくる工場でしたが、明治初期、造船所は船を、製鉄所は鉄を、製作所は工業製品を作るという、近代工業の分業化が始まった時期でもあると思います。



当時のパンフレットがあります。まだ軍港という制限は厳しくなかったようです。遠方から、横須賀の軍港を見に来たのでしょう。もしかしたら現在のディズニーランドの様なものだったのかもしれません。



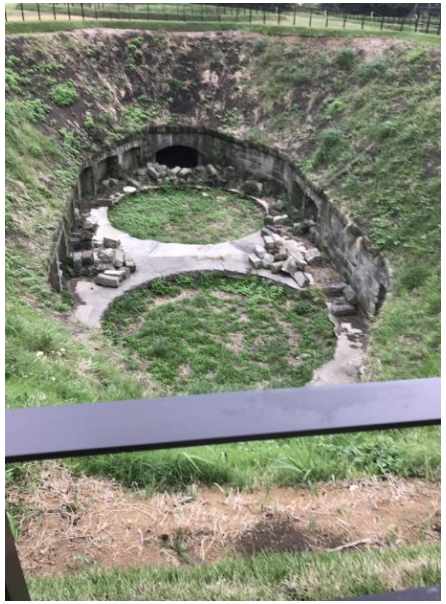
ドックの建設

●明治維新の混乱を乗り越えて明治4年[1971年)、横須賀製鉄所に本格的なドック(第1号)が完成し、横須賀製鉄所から名称も横須賀造船所と変更になります。造船所時代に1号、3号、2号ドックが造られ、日露戦争後の海軍工廠時代に4号、5号、6号と造られ終戦を迎えます。

●現在はこれらのドックは在日米海軍が使用していますが、特に6号ドックは終戦直前には空母信濃が建造され、今は米海軍原子力空母の修理用ドックとして使用されています。

横須賀というと海軍となりがちですが、陸軍も明治の初期から東京湾防衛の海岸砲台運用のために横須賀に駐屯しています。日露戦争では不入斗の部隊が歴戦の野戦砲兵連隊として名を挙げています。
また203高地攻めに、箱崎砲台、米が浜砲台か28センチ榴弾砲が使われました。

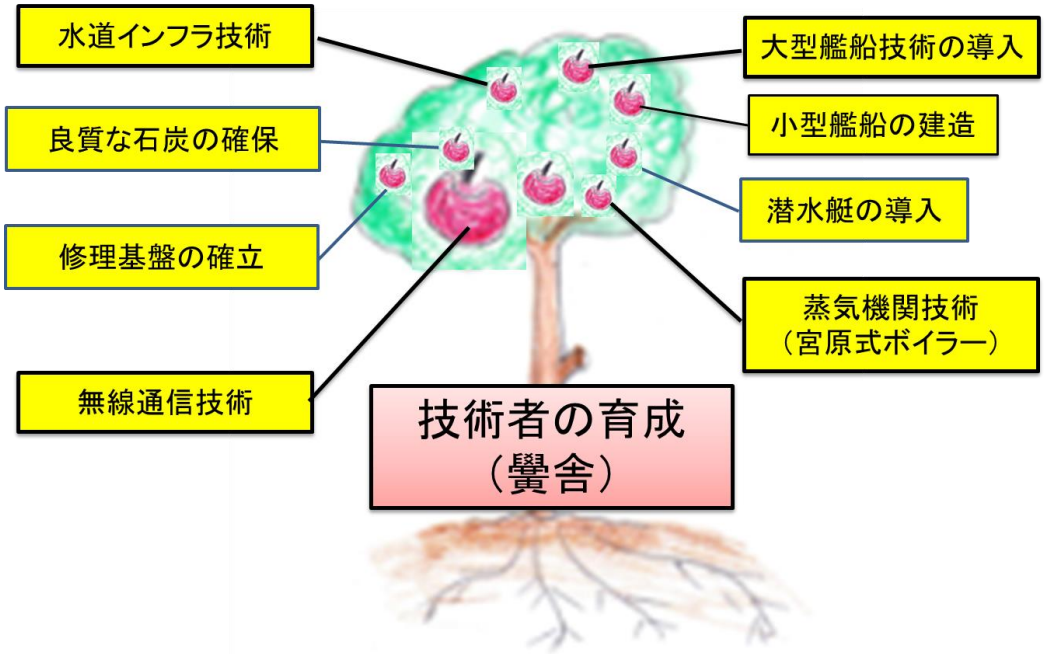
横須賀の砲台群跡はほとんど残っていませんが、明治25年に造られた、浦賀の千代ケ崎砲台がかなりの完全な形で今回発掘されました、何かの機会に観ていただければと思います。



当時日本は大型の艦船を建造する技術力はなく、日本海海戦を戦った三笠をはじめとする大型の軍艦は輸入（主に英国）でした。

輸入した軍艦を運行するための乗員の訓練、そして横須賀造船所での修理あるいは技術のノウハウ学びました。それは大変な苦労だったと思います。

まさに日本海海戦の表舞台の役者は輸入戦艦でしたが、その裏方として横須賀造船所が支えていたこと、そして小栗上野介の先見性に頭が下がります。



ここで横須賀製鉄所から横須賀造船所の約30年間に培った代表的な技術について振り返ってみたいと思います。

横須賀製鉄所と海軍工廠の間にあって、横須賀造船所は目立ちませんが、横須賀造船所は孤軍奮闘だったと思います。